

富士通が考える デジタルガバメント の未来





Introduction

FUJITSU

私たちは、この激動の世界から目を離さない。

今、世界では不安定な地政学的な情勢や、それに伴う経済安全保障の重要性の高まり、地球規模での新型コロナウイルス感染症の流行による経済やサプライチェーンの停滞など様々な社会情勢へのリスクが高まっています。

さらにデジタルの世界では、プラットフォームが中央集権的に支配するWeb2.0への不安・反省から、分散型のWeb3.0の世界への移行を提唱する声も高まりをみせています。加えて気候変動に代表される環境問題にも焦点が当てられ、脱炭素社会の実現に向けた施策が進められています。

日本においても、災害の激甚化など環境問題をはじめ、少子高齢化による人口減少等の社会課題の解決、新しい働き方の追求など重要なテーマがあります。また、単なる課題解決だけではなく、豊かで持続性のある社会の在り方とともに、地方や日本全体の活力、魅力の向上も求められ、官民が力を合わせての取り組みが必須となっています。

01

誰もが
豊かさを実感できる
持続的な社会へ。

FUJITSU



豊かさを実感できる 持続的な社会の実現に 向けて富士通ができること。

私たちが考えるデジタルガバメントの目的とは「社会課題を解決し、人々が“心の豊かさ”を感じられる社会を創ること」です。

そのためには、利用者視点に立った課題発見と、使いやすさにこだわった問題解決アプローチが不可欠です。

トラストを軸としたデジタル技術を活用し、官と民、さらに個人が連携して新しい公共サービスを創るとともに、社会全体のDXを推進する。同じ志を抱く仲間たちと豊かな未来を共創していきたいと考えています。

この国の課題と向き合う。

様々な社会課題に直面し、ビジネスや暮らしは劇的に変わりつつあります。このように、今は多種多様な課題が重層的に発生しており、まさに時代の変曲点にあるといえるでしょう。

変曲点であるからこそ、未来に思いを馳せ、これからの社会をどのように創っていくのか、今こそ真剣に考えていくことが重要となります。

日本の抱える課題



地方の活力・魅力不足



超高齢化寿命と
健康寿命のギャップ



低い労働生産性
経済成長の停滞



世界に対する発信不足
相対的なポジション低下

私たちが考える「豊かさ」。

人々が幸せに暮らす未来の社会を考えるうえで、最も重要なことは何でしょうか。私たちは、「心の豊かさ」を実感できる社会であることと考えています。

慶應義塾大学大学院で幸福学を専門とされている前野隆司教授によると、心の豊かさにつながる「幸せ」の因子はいくつかあるとされますが、なかでも「主体性」すなわち「やりがい」を持って自己決定できる喜び」と、「利他性」すなわち「他の人々とのつながりから生まれる幸福感」の比重が大きいのではないかと考えられます。言い換えると、「選択できること」と、「つながりを軸に他者に貢献できること」が、心の豊かさにつながるといえます。



出典：慶應義塾大学大学院 前野 隆司教授との対談をもとに作成

01

デジタルで、 誰もが幸福な 未来を創る。



FUJITSU

ヒューマンセントリックな考え方を基軸とし、「選択できる主体性」と「他者とのつながり」で生まれる利他性」を実感できる社会を、デジタル技術で実現していきたいと考えています。デジタル技術で可能性が広がり、世代や距離を超えたつながりが生まれる豊かな未来の社会を描いています。

そのためには、富士通だけではなく、国や自治体、企業やNPO、そして個人まで、多様なステークホルダーの連携が不可欠となります。行政をはじめ、医療や教育、交通、暮らしやエンタメなどあらゆる分野でデータがつながり、変革がもたらされる。多様な連携で、人々が豊かさを実感できる未来を実現していきたいと考えているのです。



デジタルで人々の豊かさを実現する

出典：慶應義塾大学大学院 前野 隆司教授との対談をもとに作成

01

2030年。 誰もが「豊かさ」を実感できる未来像。

● 50代働き盛り、家族みんな自分らしく

- ・ スマートウォッチやセンサーによる健康管理とシェア
- ・ デジタルによる多様な働き方や体験
- ・ シェアリングサービスのデジタルによる支援
- ・ マイナンバーカードによるデータ連携

● 災害時の安心感、民間サービスが示す選択肢

- ・ 画像解析による防災、遠隔操作での減災
- ・ デジタル端末を活用したボランティア
- ・ 避難所システム

● 働く女性、自分で選択できる未来

- ・ AIによる保育所マッチング
- ・ 自動運転による公共交通

● 一人ひとりが楽しみながらできる、ちょっと良いこと

- ・ EVや太陽光発電のスマートメーター



FUJITSU

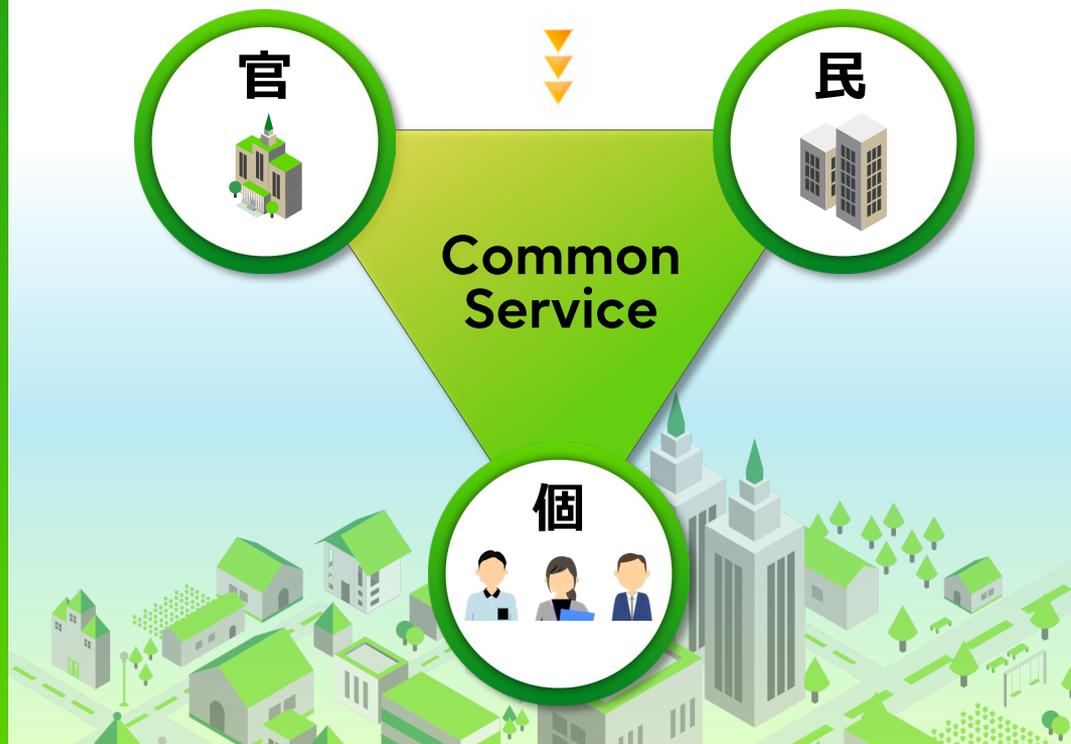
未来像を実現するために。 私たち富士通が目指す デジタルガバメント像

豊かな社会を実現するために、現状をどう変えていくべきでしょうか。国民の期待に真に応え、豊かさを実感できる社会づくりに向けて、デジタルガバメントおよび公的サービスの課題と、デジタル技術を活用して実現すべき変革の方向性を整理していきます。

私たちが目指す デジタルガバメント像

「豊かさを実感できる未来」を実現するためには、国民一人ひとりが各々の幸せにつながる選択を自在にできる社会システムが必要です。そのためには、行政サービスを従来の公的サービス（Public Service）とは異なり、“官・民・個”の三位一体で、デジタルの力を活用し共的サービス（Common Service）としてリデザインし、使い勝手の良いものに変えていかなければなりません。これがデジタルガバメントの目指すべき姿であると考えています。

官・民・個の三位一体で公的サービスを
Common Serviceにリデザインし
選択性の高いサービスへ



私たちが目指す デジタルガバメント像

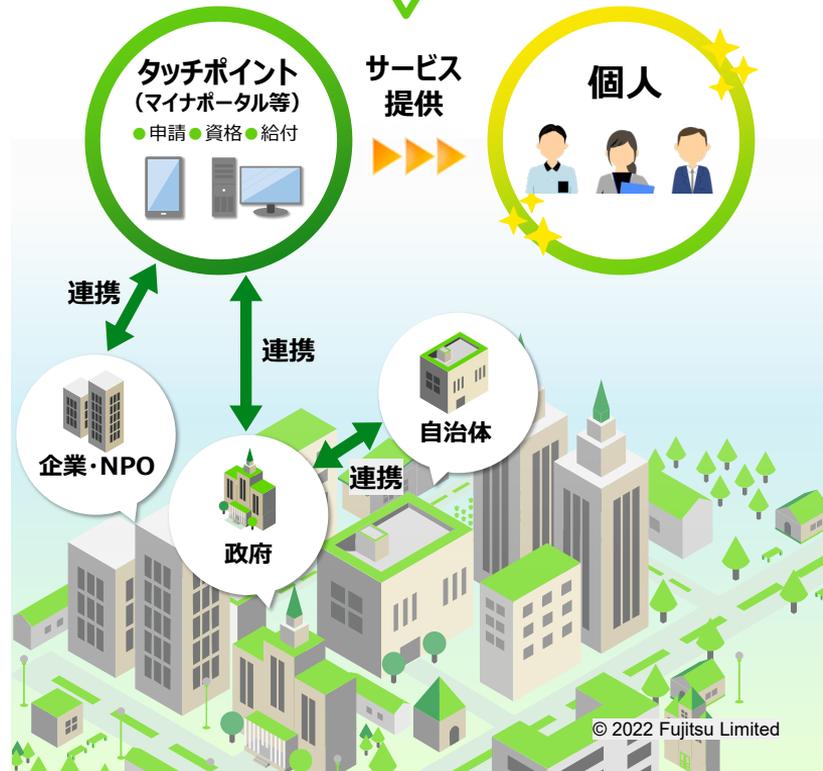
「取りに行く」サービスから「届ける」サービスへ

現在住民票などの書類は「取りに行く」ものですが、デジタルガバメントでは「届ける」サービスを実現できます。そのためには、個々の手続き・サービスが一貫してデジタルで完結する「デジタルファースト」を前提に、「ワンストップ」と「ワンズオンリー」という考え方が重要になります。

「ワンストップ」とは、行政機関に限らず、複数の組織などに分散しているサービスや手続きを1カ所でまとめて提供することを指します。

「ワンズオンリー」は、一度提出した情報は二度提出することを不要とするというもの。現状では異なる手続きをするたびに同じような情報の提出が求められ、手続きごとに申請書も作成しなければなりません。デジタルガバメントが進めば、行政側も入力や照合の手間の削減など効率化を図れます。また、サービスを受ける側の国民にとっても使い勝手の良いサービスとなるでしょう。

これからのデジタルガバメントは
プッシュ型でワンストップ・ワンズオンリーな
サービスへ



私たちが目指すデジタルガバメント像

準公共分野のデジタル化における取り組み

豊かで安心・安全な社会を実現するためには、デジタルガバメントによる共的サービスとしての行政サービスだけでは不十分です。健康・医療・介護やインフラ、モビリティなど準公共分野のデジタル化を同時に進めることが必要と考えます。



【健康・医療・介護】

病気にならず、健康に暮らせる未来を目指す



【インフラと防災】

しなやかで強い社会インフラを実現する



【モビリティ】

スマートな交通社会を実現するために



【スマートシティ】

デジタル技術と政策が一体となって持続可能な都市をつくる

未来を創るために 私たちが担う役割。

未来像に向けて社会をつなぎ、
さらに連携する場を提供する。
それらを実現するために、
富士通ができること。



ともに未来を見据え 先導する人材・思考・技術で 持続的で豊かな社会を実現する。

デジタルガバメントを実現し、“官・民・個”の三位一体で、デジタルの力を活用しながら公的サービスを共的サービスとしてリデザインするうえでは、多様な人材や知見、デザイン思考のアプローチが不可欠です。デザイン思考で課題を突き詰め、ニーズを捉え、試行と改善を繰り返し想像をカタチにしていながら、デジタル技術としては、データの流通を支えるトラスト技術、データ利活用でデジタルツインを実現するコンピューティング技術やコンバージング技術が重要になります。

富士通はこれらの人材・思考・技術によってデジタルガバメントを実現し、持続的で豊かな社会を皆様とともに創っていきます。

03

デザイン思考で 課題に寄り添って考える。

豊かな社会を実現していくうえで、共創のベースとなるのはデザイン思考だと考えています。私たちが考えるデザイン思考とは、まだ言語化されていないニーズをつかみ、アイデアを自分たちで創出し、プロトタイプングとブラッシュアップを繰り返しながら完成させていく思考法です。

国民が「豊かさ」を実感できる行政サービスには、使い勝手の良さ、多様な選択肢から各人が自分に合ったものを主体的に選び取ることができる国民側の目線での開発・提供が求められます。そのためには、国民が抱える課題を突き詰め、真のニーズを捉えて、その解決に寄与するサービスをデザイン思考で実現するという考え方が重要になります。



技術によるデータ連携で 信頼ある場を作り出す。

公的サービスを共的サービスとしてリデザインするうえで、デジタル技術としては、データの流通を支えるトラスト技術、データ利活用でデジタルツインを実現するコンピューティング技術やコンバージング技術が重要になります。

データを安心かつ安全に流通させ、多彩なステークホルダーがデータをトラストのもとで活用できるようにするには、データ基盤の構築が必要です。また、HPC技術を活用していくとともに、最先端デジタル技術と人文・社会科学などの知見を融合してコンバージング技術を生み出すことで、新たな社会課題の解決に貢献し豊かな社会の実現につなげていくことができるのです。



Computing



Network



AI

Data &
SecurityConverging
Technologies

多様な人材・知見による 幅広い視点と堅実な実行力。

共的サービスをリデザインし、豊かな社会の実現を目指す取り組みを、私たちはデザイン思考のアプローチと、トラスト技術などの技術を用い、さらに多様な人材と知見によってトータルで実現していきます。

富士通ではこれまでに数々の実績を積み重ねてきた経験と知見から堅実な実行力を有しています。それだけではなく多様なバックボーンを持つ人材が存在し、社内でも常に新たな考え方を取り込み、アップデートしていく体制も整っているため、幅広い視点から最適な未来を実現していきます。



多様な人材

+



幅広い知見

+



堅実な実行力

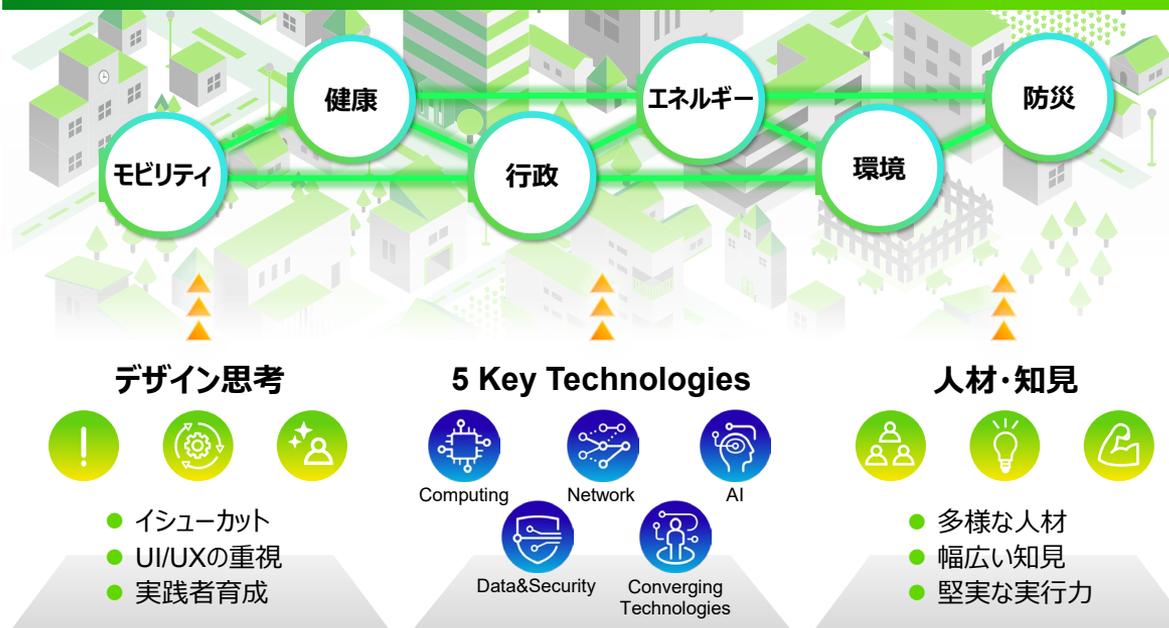


そして私たちは仲間とともに社会をつないでいく。

社会変革に関わる大きな取り組みは、富士通だけの力では難しく、関連する様々なパートナーやステークホルダーとの連携によって、より大きな成果が得ることができます。

これからも、同じ志に向かって取り組める仲間（人、組織）と一緒に共的サービスとしてのデジタルガバメントを推進していく考えです。

仲間とともにこれまでにない価値を創出し、豊かな社会を実現する土台を創る



富士通株式会社

<https://www.fujitsu.com/jp/>

商標について

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

本誌の一部または全部を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

© 2022 Fujitsu Limited

2022年10月発行